

ホワイトヘブン社が900万トンの石炭販売見込む

= ナラブライ炭鉱の原炭生産を400万トンに拡大

豪州のホワイトヘブン・コール社(Whitehaven Coal Limited)は2012/13年度(2013年6月30日までの1年間)の石炭販売予定量(権益100%ベース、以下も同様)を900万トンに策定している。内訳は自社生産炭が860万トン、買炭が40万トンとなっている。

2011/12年度の石炭販売量は614万トンであったことから、前年度比では286万トン(46.6%)の増加となる。

ホワイトヘブン社は今後、2012/13年度の石炭販売目標を達成するため、ガネダ・ベースン(Gunnedah Basin)の既存坑内掘り炭鉱であるナラブライ(Narrabri)炭鉱での拡張を推進する。

ナラブライ炭鉱では2012年6月にロングウォール(LW)操業が開始されたことに伴い、7~9月の原炭生産量が51万2千トン(精炭生産量は48万9千トン)に増加した。同炭鉱ではLW操業の本格化によって、2012/13年度は400万トンの原炭生産が見込まれる。ちなみに同炭鉱の2011/12年度における原炭生産量は36万2千トンであった。

一方、ホワイトヘブン社は10月25日に、NSW州ガネダ・ベースン(Gunnedah Basin)の既存一般炭炭鉱であるサニーサイド(Sunnyside)炭鉱を実質的に閉山することを決定している。これに伴い40万トンの原炭生産が失われる。

ホワイトヘブン社はサニーサイド炭鉱の閉山による生産減を補うべく、ウエス・クリーク(Werris Creek)炭鉱の原炭生産を200万トンから250万トンに引き上げることにしている。

(宮元)